

月例研究会（2004年7月28日）

大原社会労働リンク集の現状と課題

手島 繁一

大原社会問題研究所のWebサイト（通称oisr.org）は、「デジタルライブラリー」など7つのカテゴリで構成されており、その社会的評価も高い。今回の月例研究会では、その一つを構成する標記の「社会労働リンク集」（<http://oohara.mt.tama.hosei.ac.jp/links/index.html>）を対象にして、その客観的評価と今後の課題を検討することにした。

さて、リンク集には11のサブカテゴリがある。それぞれの収録サイト数は表の通りである。

サブカテゴリ	収録サイト数
1 特集	76
2 労働組合WEBサイト一覧	1486
3 社会問題・社会運動	171
4 分野別リンク集一覧	50
5 官庁・経営者団体等	53
6 国内の英語サイト	82
7 研究機関・研究者	181
8 E-TEXTリンク集	461
9 学術研究関連リンク集	55
10 社会問題研究リソース	289
11 スタッフ個人サイト	6
計	2910

この表をもとに、他の代表的リンク集との比較から客観的評価としてはこのようなことが言える。

①労働運動系（労働組合・労働運動・労働

問題）のサイトの収録数（サブカテゴリ2, 6など）は1,500超であり、網羅性という点ではわが国ピカイチである。ちなみに、わが国の代表的な検索サイトである「Yahoo! Japan」（検索エンジンはGoogleを採用）は497サイト、「freshEYE」（検索エンジンはInktomiを採用）では239サイトとなっている。

②研究リソース系（E-TEXTリンク集、学術研究関連リンク集、社会問題研究リソース）は、大原リンク集の独自のものである。特に論文などの研究リソースに直接リンクを張っていることなどは、学術研究におけるインターネットの可能性を切り拓く先進的かつ画期的な試みである、との評価を受けている（2003年度研究員総会での二木講演、ACADEMIC RESOURCE GUIDEなどを参照）。

③社会運動・社会問題リンク集については、他の検索サイトやリンク集との差別化が課題となっている。インターネットの原初段階では、この種のリソースが貧弱だったこともあり、「社会問題研究リソース」（サブカテゴリ10）という形で包括的あるいは網羅的リンク集の構築を構想した（その経過および成果は、ワーキングペーパー「インターネットは社会問題構築にどのような影響をおよぼすのか：社会問題に関するWEBサイトの内容分析」2003年2月にまとめられている。Web上では、<http://oohara.mt.tama.hosei.ac.jp/wp/gaiyo.pdf>）。この経験をもとに、「インターネットが社会問題のあり方を変えたり、新たな社会問題を構築し、市民社会の拡充に貢献する可能性」（同上）を想定しつつ、大原社研の社会問題・社会運動リンク集を構築する必要がある。

（てじま・しげかず 法政大学大原社会問題研究所
兼任研究員）